

琉球大学学術リポジトリ

小学校外国語における英語絵本の活用方法に関する研究

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学大学院教育学研究科 公開日: 2022-05-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 浦内, 桜 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24564/0002017979

小学校外国語における英語絵本の活用方法に関する研究

A Study of Criteria for Selecting Suitable English Picture Books
for Elementary School Foreign Language

浦内 桜

Sakura URAUCHI

琉球大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻

1. 問題の所在

2017年3月に新しい学習指導要領が告示され、2020年度から小学校中学年に外国語活動、高学年には教科としての外国語が導入された。教科前の外国語活動内容に含まれなかったものとして、「読むこと」「書くこと」が新たに導入された。

第二言語(Second Language)の習得とは、母語(Mother Tongue)以外の他の任意の言語の習得を指す。母語としてではないが、英語を日常生活やビジネスで常に使用し、学校では授業で英語を学び、習熟している場合の英語を「第二言語としての英語 English as second language」という。また、日常ではほとんど使わないが、仕事で必要とする場合に使う英語を「外国語としての英語 English as a foreign language」という。第二言語習得では、この両者を扱う事になる(小池 2003)。

第二言語習得には「理解可能なインプット」(comprehensible input)が不可欠である(Krashen 1994)。つまり、わからない言語項目が含まれてはいるが内容の助けによってそれらの意味も、全体の意味もだいたいわかるようなインプットを大量にかつ継続的に取り入れることが不可欠である。Krashen(1994)は理解のための最適なインプットの4つの特徴をあげている。1つ目は、理解可能性である。これは、何のヒントもなく全く理解できないようなインプットではなく、ある程度のヒントや手掛かりによって理解できるようなインプットが第二言語習得を促進するという事である。2つ目は、関連性である。これはインプットの内容が自分の生活、将来、興味・関心に関連があるかという事である。3つ目は、真正性である。これはインプットが現実の言語使用を目的として書かれたり、話されたりしたものかどうかという事である。4つ目は、音声と文字のインプットである。第二言語のインプットは文字だけでなく、音声でも取り入れることが不可欠であると述べている。村野井(2006)は上記の4つの条件を考慮しながら、CNNjやBBC World 放送、NHK 国際放送をインプット・ソースとして挙げている。ただし、これらは中学校・高校・大学を対象にしたインプット・ソースの提案である。

小学校外国語教育においては、インプット理論に基づき第二言語習得における教材として絵本を活用した研究が存在する(e.g., 畑江 2012; 又野 2013; 吉村・吉田・今井・福島 2017)。内山・染谷(2020)は、小学校5年生を対象に英語絵本の読み聞かせを行い、読み聞かせ前後で児童の内発的動機づけがどのように変化するかを検討した。その結果、英語絵本読み聞かせ後に内発的動機づけが有意であることを示した。村端・黒木(2020)は、英語絵本に見られる英語の見方・考え方について議論している。日本語の絵本の特徴(e.g., 変化する人称代名詞に加えてオノマトペの多様)、英語絵本の特徴(e.g., 説明的で分析的および客観的表現が多く用いられている)を挙げ、英語絵本を読み聞かせることによって、英語独特の表現方法に触れることができると述べている。

このように、小学校外国語教育において絵本という教材がポジティブな影響が示されてきた。しかし、これまでの英語絵本読み聞かせに関する研究では教科化以前の研究であるためか外国語を専門にして

浦内：小学校外国語・外国語活動における英語絵本の活用方法に関する研究

いる研究者あるいは外国語専科の学生が読み聞かせを行なっている。外国語が教科化された今、専科でなくても授業を行わなければならない。外国語、特に英語を専門としていない担任が英語絵本読み聞かせを行なっても同様にポジティブに機能するのだろうか。先行研究においてこの点については十分に検討されてこなかったと言える。

小学校での英語は、英語のスキル指導が中心ではなく、コミュニケーション能力の育成を重点に置いているため、専科教員だけに任せるのではなく、児童の実態を把握している学級担任が授業を行うことが求められている（吉村他，2017）。一方、大城・深澤（2018）は451名の小学校教員を対象に小学校外国語活動及び外国語を指導することに対する自信に関するアンケート調査を行なったところ7割以上の教師は外国語の授業に自信がないことを明らかにした。英語絵本の読み聞かせが英語を専門としていない教師が用いてもポジティブに機能するのか検討することは今後の小学校における外国語の授業において重要であると考ええる。

2. 研究の目的

以上を踏まえ、本研究では以下の2点を目的とする。1つ目は、英語（外国語）を専門としていない筆者が、英語絵本の読み聞かせを行うことにより、児童の外国語学習に対する内的動機づけ及び外国に対する興味の変容を検討すること、2つ目に、実践を通して得られた英語絵本活用方法の提案を行うことを目的とする。

3. 研究方法

第二言語習得研究では、テレビやビデオの字幕の有無について議論されている（e.g., Koolstra, Voot, and Kamp, 1997）。Koolstra, Voot, and Kamp (1997)では、オランダ人の小学生を対象に、音声は英語で字幕がオランダ語のテレビ番組の効果検証を行い、英語語彙習得に有効であったと示唆した。一方、吉野・野嶋・赤堀（1997）は英語及び日本語の字幕の種類により異なる効果が、再生にどのような影響を持つのかについての認知的な実験を行なった。その結果、日本語字幕は、英語の聞き取りや記憶を阻害すると考察しており、母語の扱いは慎重さを要する。また英語の絵本と一言に言っても多種多様な絵本が存在する。

本研究では、小学校英語専科および大学教員に絵本内容および絵本の訳に関する確認を行い、内容的妥当性を確認した絵本を用いる。具体的には、英語圏で親しまれている絵本（e.g., Five little monkeys）8回、世界的名作や日本昔話など日本でもよく親しまれている絵本（e.g., Momotaro）6回の計14回英語絵本の読み聞かせを、外国語の授業冒頭で行う。読み聞かせの時間は5分～7分程度である。また、母語の扱い方については英語圏で親しまれている絵本の読み聞かせに関して、1組および3組は母語なし、2組は母語あり、世界的名作や日本昔話など日本でもよく親しまれている絵本に関しては2組および3組は母語なし、1組は母語ありで読み聞かせを行う（see Table 1）。読み聞かせ前後で、児童の内的動機づけおよび外国への興味に関するアンケート調査、全ての読み聞かせ終了後には一番面白かった絵本に関するアンケート調査を行う。また、英語絵本読み聞かせ終了後に聞き取れた単語や印象に残った単語を尋ねる。

Table 1 各クラスにおける母語の扱い方

	1組	2組	3組
英語圏の絵本	母語なし	母語あり	母語なし
日本でも親しまれている絵本	母語あり	母語なし	母語なし

課題研究最終報告

(1) 研究参加者

研究参加者は、小学5年生105名（3クラス各35名）を対象とした。調査にあたり、(a) 回答の拒否や中断は可能であること、(b) 得られた回答内容は研究以外の目的には使用しないことを教示した。

(2) 質問紙

外国語学習に対する児童の内的動機づけおよび外国への興味を把握するため、実践前後でカレイラ(2013)の質問項目を使用したアンケート調査を行った。この尺度は、小学生の英語学習に対する情意要因（内的動機づけ、道具的動機づけ、外国に対する興味、不安、親の励まし）を測定する尺度である。本研究では、内的動機づけ4項目、外国に対する興味5項目を使用した。カレイラ(2013)同様に、「とてもよく当てはまる」(4点)から「まったく当てはまらない」(1点)の4件法を用いた。また、14回終了後には上記の項目以外に絵本読み聞かせに関する3項目（e.g., 「英語の絵本読み聞かせは楽しいです」）を用いた。

4. 結果

内的動機づけおよび外国への興味に関する分析は t 検定（対応あり）で行なった。統計処理には HAD Version 17.105（マニュアルとして、清水 2016）を用いて、有意水準は5%とした。英語圏で親しまれている絵本読み聞かせ終了後のアンケート結果を Table 2, 世界的名作や日本昔話など日本でもよく親しまれている絵本読み聞かせ終了後のアンケート結果を Table 3 に示す。欠損値は除外した。英語圏で親しまれている絵本読み聞かせ終了後のやり取りの様子を Table 4, 世界的名作や日本昔話など日本でもよく親しまれている絵本読み聞かせ終了後のやり取りの様子を Table 5 に一部抜粋したものを示す。一番面白かった絵本に関する結果を Table 6 に示す。

(1) 英語圏で親しまれている絵本を8回読み終わった際のアンケート結果

t 検定の結果、内発的動機づけは、1組は正で有意差が見られた ($t(28) = -3.81, p < .01$)。2組および3組は有意差が見られなかった（2組, $t(23) = -0.08, ns$; 3組, $t(23) = -0.84, ns$ ）。興味は、全てのクラスにおいて有意差は見られなかった（1組, $t(26) = -0.82, ns$; 2組, $t(23) = -0.06, ns$; 3組, $t(22) = -0.26, ns$ ）。

(2) 日本で親しまれている絵本を6回読み終わった際のアンケート結果

t 検定の結果、内発的動機づけはいずれのクラスにも有意差は見られなかった。（1組, $t(28) = 1.53, ns$; 2組, $t(23) = 0.77, ns$; 3組, $t(29) = -0.14, ns$ ）。興味も同様にいずれのクラスにも有意差は見られなかった（1組, $t(26) = -0.33, ns$; 2組, $t(23) = -0.23, ns$; 3組, $t(22) = 1.99, ns$ ）。

(3) 英語の絵本読み聞かせについてのアンケート結果

「英語の絵本読み聞かせは楽しいです」「他の英語絵本を知りたいです」「読み聞かせのとき、日本語があったほうがわかりやすいです」3点を4件法で尋ねた。その結果、「英語の絵本読み聞かせは楽しいです」について、いずれのクラスも天井効果を示した。具体的には1組（母語なし→あり）は $M=3.76, SD=0.50$, 2組は（母語なし→あり）は, $M=3.45, SD=0.77$, 3組は（母語なし→なし）は $M=3.29, SD=0.87$ だった。「他の英語絵本を知りたいです」について、1組は天井効果を示した。具体的には1組（母語なし→あり）は $M=3.41, SD=0.95$, 2組は（母語なし→あり）は, $M=3, SD=0.95$, 3組は（母語なし→なし）は $M=2.76, SD=1.02$ だった。「読み聞かせのとき、日本語があったほうがわかりやすいです」について、1組（母語なし→あり）は $M=3.12, SD=0.99$, 2組は（母語なし→あり）は, $M=2.65, SD=1.19$, 3組は（母語なし→なし）は $M=2.79, SD=1.01$ だった。

最後に面白かった絵本の結果を Table 5 に示す。1番多かったのは「Five little monkeys」、2番目に多かったのは、「The ugly duckling（みにくいアヒルの子）」、3番目に多かったのは「Who stole the cookies?」

浦内：小学校外国語・外国語活動における英語絵本の活用方法に関する研究
 だった。クラス別に見ると、1組は順に「Five little monkeys」「The ugly duckling (みにくいアヒルの子)」「Who stole the cookies?」「The little pigs」を挙げており、2組は順に「Five little monkeys」「Who stole the cookies?」「The ugly duckling (みにくいアヒルの子)」「Swimmy」を挙げており、3組は順に「Five little monkeys」「The ugly duckling (みにくいアヒルの子)」「Rice Ball (おむすびころりん)」を挙げていた。

Table 2 英語圏で親しまれている絵本を8回読み終わった際のアンケート結果

変数	1組 (N=34)				2組 (N=28)				3組 (N=31)			
	Pre		Post		Pre		Post		Pre		Post	
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
内的動機 づけ	11.38	2.98	12.86	2.07	11.88	2.64	11.92	3.56	10.56	3.24	10.92	3.16
興味	14.18	5.06	15.11	4.42	13.83	4.36	13.88	5.03	12.96	4.96	13.17	4.42

Table 3 日本で親しまれている絵本を6回読み終わった際のアンケート結果

変数	1組 (N=34)				2組 (N=28)				3組 (N=31)			
	Pre		Post		Pre		Post		Pre		Post	
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
内的動機 づけ	12.10	2.07	11.83	3.39	11.92	3.56	11.50	3.08	10.56	3.24	11.27	2.99
興味	15.11	4.42	14.79	4.76	13.88	5.03	13.73	4.53	12.96	4.96	16.83	1.29

(4) 英語圏で親しまれている絵本読み聞かせ終了後に聞き取れた単語や印象に残った単語

読み聞かせ終了後に聞き取れた単語や印象に残った単語数を Figure 1 に示す。回数を重ねるにつれて印象に残った単語数が線形傾向で上昇していることがわかる。母語あり，母語なしでは印象に残った単語数の差は見られなかった。また，4回目からは「あの単語なんて言うんだっけ？」という発言や友達と頭を悩ませる姿が見られた。意味を理解しているか尋ねたところ「なんとなく」や「意味がわからない」などの発言があった。

(5) 日本でも親しまれている読み聞かせ終了後に聞き取れた単語や印象に残った単語

読み聞かせ終了後に聞き取れた単語や印象に残った単語 Figure 2 に示す。母語あり，母語なしでは印象に残った単語数の差は見られなかった。また，印象に残ったフレーズを尋ねると日本語で回答する様子が伺えた。例えば，かぐや姫を読み聞かせした際は「竹」，みにくいアヒルの子を読み聞かせした際は「白鳥」「ひよこ」など日本語での回答が多々見られた。意味を理解しているか尋ねたところ「めでたし，めでたし」や「悲しい/寂しい」などの発言があった。

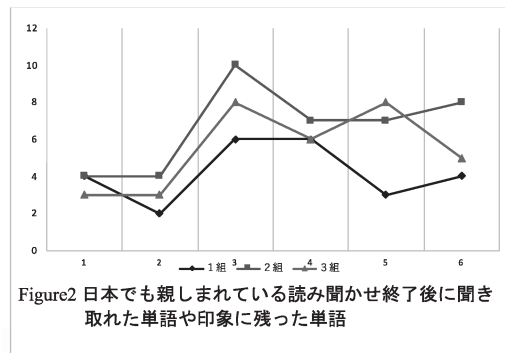
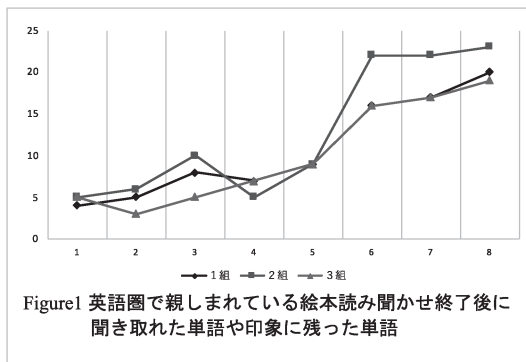


Table 4 英語圏で親しまれている絵本読み聞かせ終了後のやり取り

	1組 (母語なし)	2組 (母語あり)	3組 (母語なし)
	Our sweet home	Our sweet home	Our sweet home
	T「意味わかりましたか？」	T「意味わかりましたか？」	T「意味わかりましたか？」
	C1「なんとなく」	C1「うん, なんとなくだけど」	C1「うん, まあ」
一	C2「全然, 意味わかんない」	T「なんか印象に残った言葉は	T「なんか印象に残った言葉は
回	T「なんか印象に残った言葉は	ありますか？」	ありますか？」
目	ありますか？」	C2「sweet home」	C2「stop on me」
	C3「Rainbow」	C3「See?」	C3「hello」
	C4「Hello」	C4「Flower」	C4「beautiful」
	C5「Step on me」	C5「It's my home」	C5「sweet home」
	C6「Spider」	C6「Typhoon」	C6「see?」
	The very hungry caterpillar	The very hungry caterpillar	The very hungry caterpillar
	T「意味わかりましたか？」	T「意味わかりましたか？」	T「意味わかりましたか？」
	C1「この物語, 大好き」	C1「はい」	C1「いちご食べたーい」
	C2「知ってるー」	C2「まあ, うん」	C2「知ってるー」
	T「印象に残ったフレーズはあ	T「印象に残ったフレーズはあ	T「印象に残ったフレーズはあ
	りますか？」	りますか？」	りますか？」
	C3「Hungry」	C1「Hungry」	C3「Very hungry」
	C4「The end」	C2「Beautiful」	C4「Hungry」
	C3「Apple」	C3「Butterfly」	C5「Green」
	C4「Orange」	C4「Caterpillar」	C6「Monday」
	C5「Beautiful butterfly」	C5「Moon」	C6「Saturday」
	C6「Chocolate」	C6「Little egg」	C6「Friday」
	C7「Strawberry」	C7「Monday」	C7「Apple」
七	C8「Cupcake」	C8「Tuesday」	C8「Tuesday」
回	C9「Sausage」	C9「Sunday」	C9「The end」
目	C10「Little egg」	C10「Wednesday」	C10「Wow!」
	C11「Lolli pop」	C11「Thursday」	C11「Sunny」
	C12「Moon」	C12「Friday」	C12「Moon」
	C13「Light of the moon」	C13「Sausage」	C13「House」
	C14「Egg」	C14「Watermelon」	C14「Two weeks」
	C15「Sunday, Monday Tuesday」	C15「cherry pie」	C15「Leaf」
	C16「あれ, なんていうんだっ	C16「Strawberry」	C16「あの一, なんだっけ, あ
	けー？」	C17「Chocolate cake」	れ」
		C18「The end」	
		C19「Orange」	
		C20「Apple」	
		C21「あおむしってなんて言う	
		んですか？」	

Table 5 日本でも親しまれている絵本読み聞かせ終了後のやり取り

	1組 (母語あり)	2組 (母語なし)	3組 (母語なし)
一回目	The little red	The little red	The little red
	T「意味わかりましたか？」	T「意味わかりましたか？」	T「意味わかりましたか？」
	C1「わかった」	C1「うん」	C1「おばあさん助かってよかった」
	T「なんか印象に残った言葉はありますか？」	T「なんか印象に残った言葉はありますか？」	T「なんか印象に残った言葉はありますか？」
	C2「the end」	C2「red」	C2「red」
	C3「basket」	C3「big mouse」	C3「food」
	C4「cap」	C4「eye」	C4「grand mother」
	C5「お前を食べるためだよ」	C5「basket」	
六回目	The ugly duckling	The ugly duckling	The ugly duckling
	T「意味わかりましたか？」	T「意味わかりましたか？」	T「意味わかりましたか？」
	C1「ハッピーエンドだった」	C1「わかった」	C1「うん」
	C2「よかったよかった」	C2「これ図書館にあるかな？」	C1「元々、ひよこじゃなかったんでしょ」
	T「印象に残ったフレーズはありますか？」	T「印象に残ったフレーズはありますか？」	T「印象に残ったフレーズはありますか？」
	C1「duck」	C3「nice to meet you」	C1「no friend」
	C2「アヒル」	C4「mother」	C2「spring」
	C3「白鳥」	C5「swan」	C3「duck」
	C4「ひよこ」	C6「no family, no friends」	C4「nice to meet you」
		C7「beautiful」	C5「beautiful」
	C3「spring」		
	C7「winter」		
	C8「fly」		

Table 6 児童が選ぶ面白かった絵本

絵本	1組 (人)	2組 (人)	3組 (人)	合計 (人)
1 Me Myself	7	9	5	21
2 Our sweet home	6	6	3	15
3 Swimmy	9	10	7	26
4 Five little monkeys	19	19	20	58
5 Three little pigs	13	9	9	31
6 The very hungry caterpillar	6	6	6	18
7 What's this?	5	9	4	18
8 Who stole the cookies?	13	13	8	34
1 The little red (赤ずきんちゃん)	10	7	6	23
2 The little mermaid (人魚姫)	10	7	5	22
3 Momotaro (桃太郎)	12	9	9	30
4 Rice ball (おむすびころりん)	9	9	11	29
5 Princess Kaguya (かぐや姫)	11	5	7	23
6 The ugly duckling (みにくいアヒルの子)	14	10	11	35

5. 考察

本研究は、英語（外国語）を専門としていない筆者が、英語絵本の読み聞かせを行うことにより、児童の外国語学習に対する内的動機づけ及び外国に対する興味の変容の検討および、実践を通して得られた英語絵本活用方法の提案を行うことを目的とした。実践では、英語圏で親しまれている絵本8回、日本で親しまれている絵本（世界的名作、日本昔話）6回の計14回行った。読み聞かせ前後で、児童の英語への内的動機づけおよび外国への興味に関するアンケート、面白かった絵本について尋ねた。t検定の結果、内的動機づけは、1組は正で有意差が見られた。日本で親しまれている絵本を6回読み終わった際の内的動機づけおよび興味はいずれのクラスにも有意差は見られなかった。読み聞かせ終了後、聞き取れた単語や印象に残った単語を尋ねた結果、英語圏で親しまれている絵本は、回数を重ねるにつれて単語数が線形傾向で上がっていた。母語あり、母語なしのクラスを比較して単語数の差は見られなかった。また、4回目からは「あの単語なんて言うんだっけ？」という発言や友達と頭を悩ませる姿が見られ、積極的に参加しようとする姿勢がそれぞれのクラスで窺えた。日本でもよく親しまれている絵本は、特に回数を重ねても単語数に変化は見られなかった。ただし、英語圏で親しまれている絵本とは異なり、印象に残ったフレーズを尋ねた際、日本語で回答する様子が窺えた。絵本の内容に関して意味を理解しているか尋ねたところ英語圏で親しまれている絵本の読み聞かせは、日本で親しまれている絵本読み聞かせに比べて、「意味がわからない」、「なんとなく」と発言する様子が窺えた。英語の絵本読み聞かせに関して「英語の絵本読み聞かせは楽しいです」は、いずれのクラスも天井効果を示した。「他の英語絵本を知りたいです」については、1組は天井効果を示し、2組、3組も比較的高い値を示した。「読み聞かせのとき、日本語があったほうがわかりやすいです」について、1組は天井効果を示し、2組、3組も比較的高い値を示した。面白かった絵本について1番多かったのは「Five little monkeys」、2番目に多かったのは、「The ugly duckling(みにくいアヒルの子)」、3番目に多かったのは「Who stole the cookies?」だった。

英語の絵本読み聞かせを、英語（外国語）を専門としていない者が行なっても、児童の外国語学習に対する内的動機づけ及び外国に対する興味にポジティブな影響がある可能性がある。英語の絵本読み聞かせに関するアンケートでは「英語の絵本読み聞かせは楽しいです」、「他の英語絵本を知りたいです」という項目に関して高い値を示した。また、母語がない英語圏の絵本を読んだ際1組の内的動機づけに有意差が見られたことから、和訳を特に意識することなく準備した絵本を練習通り読み聞かせするだけでも児童の内的動機づけにポジティブに関連する可能性がある。ただし、同じ条件である3組に関しては内的動機づけの有意差が見られなかったことから、クラスの実態を把握して少し母語を入れる必要がある場合もあると考えられる。大城・深澤（2018）は451名の小学校教員を対象に小学校外国語活動及び外国語を指導することに対する自信に関するアンケート調査を行なったところ7割以上の教師は外国語の授業に自信がないことを示した。本研究の結果は、小学校教員の外国語活動及び外国語授業を行う際に役立つのではないだろうか。

以下に実践を通して得られた英語絵本活用方法の提案を3つ行う。1つ目は、英語圏で親しまれている絵本を用いることである。聞き取れた単語や印象に残った単語を尋ねた際、回数を重ねるにつれ英語圏で親しまれている絵本は線形傾向を示したことに對し、日本でも親しまれている絵本では回数を重ねても変化が見られなかったため、英語圏で親しまれている絵本はよりインプットされている可能性がある。要因は2つ考えられる。1つは、日本でも親しまれている絵本と比較して英語圏で親しまれている絵本は、同じ語を何度も繰り返していたこと、2つは、英語圏で読まれている絵本は親しみがなく知らないストーリーだからこそ注意して聞いていたことが考えられる。2つ目の提案は、母語ありなしの有無を気にしないことである。読み聞かせ前後で、児童の英語への内的動機づけおよび外国への興味に関

浦内：小学校外国語・外国語活動における英語絵本の活用方法に関する研究

するアンケートを実施し、分析した結果、英語圏で親しまれている絵本を読み終わった際の内的動機づけは1組（母語なし）のみ有意差が見られた。外国への興味はいずれのクラスも有意差は見られなかった。日本で親しまれている絵本を読み終わった際の内的動機づけ及び外国への興味はいずれのクラスも有意差は見られなかった。担任の指導による学級の差も要因の一つと考えられる。したがって、英語絵本を読み聞かせる際は母語ありなしの有無は懸念事項ではないと考えられる。3つ目に、読み聞かせの際、歌などの工夫を取り入れることである。児童が回答した面白かった絵本の読み聞かせを参照すると1番多かった「Five little monkeys」の読み聞かせでは、歌を用いた。3番目に多かった「Who stole the cookies?」という絵本を読み聞かせた際は、ストーリー性を利用して、児童や担任の先生を巻き込みブチ劇を行なった。このように、歌や絵本の内容を劇にしてみるなどの工夫を行うことで児童は英語の読み聞かせの時間を楽しく過ごせるのではないかと考えられる。最後に、本研究の限界を指摘しておく。1つは本研究の一般化可能性である。本研究を介入研究という視点から捉えたとき、13回という短期間の介入であること、小学校1校のみの事例研究であるため、一般化することは困難である。2つは、本研究の結果全てが、英語絵本の読み聞かせによる効果であると断定することが困難であることである。本研究は英語の絵本読み聞かせを外国語の授業活動の一部として行なっている。介入手段を変えることや、介入回数を増やすこと、さらには長期間による試みが求められる。

文献

- 畑江美佳, 2012, 「小学校外国語活動における『読む』ことへの第一歩としての絵本の活用」『融合文化研究』18:2-13.
- カレイラ松崎順子, 2013, 「小学生の英語学習に対する動機づけの縦断調査」『統計数理研究所共同研究レポート』301:1-54.
- Koolstra, C.M., van der Voort, Y.H.A. & van der kamp, L.J.T.h. (h), 1997, Television's impact on children's reading comprehension and decoding skills: A 3- year panel study. *Reading research Quarterly*, 32, 128-152.
- 小池生男, 2003, 『応用言語学辞典』, 研究社.
- Krashen, S., 1994, "The pleasure hypothesis," J. Alates ed., *Georgetown University Round Table on Languages and Linguistics.*; Washington, DC: Georgetown University Press, 299-322.
- 又野陽子, 2013, 「小中連携を視野に入れた小学校外国語活動における英語の絵本の活用方法—絵本 brown bear, brown bear, What do you see?を教材として—」『中国地区英語教育学会研究紀要』, 43:41-50.
- 村端佳子・黒木美佐, 2020, 「英語の絵本に見られる英語の見方・考え方の一考察」『宮崎国際大学教育学部紀要』7:32-43.
- 村野井仁, 2006, 「第二言語習得研究からみた効果的な英語学習法・指導法」大修館書店.
- 大城賢・深澤真, 2018, 「小学校外国語活動及び外国語導入に対する小学校教員の意識：小学校教員に対するアンケート調査の分析」, 『琉球大学教育学部紀要』93:53-67.
- 内山寿彦・染谷藤重, 2020, 「小学5年生における英語絵本読み聞かせがアルファベット学習に与える影響—児童の動機づけに焦点を当てて—」『上越教育大学教職大学院研究紀要』7:225-232.
- 吉村美幸・吉田朋世・今井信義・福島安希子, 2017, 「小学校における英語絵本の読み聞かせの研究」『福井県教育研究所研究紀要』122:122-133.
- 吉野志保・野嶋栄一郎・赤堀侃司, 1997, 「英語に聞き取り場面における字幕付加の効果」『日本教育工学誌』21:29-32.